



(1)環境問題に取り組むことは、ポジティブか、ネガティブか。

(2)いつから環境教育をすべきか。

まず、環境問題に対してアクションを起こすことはポジティブだという考えの方は、現在、環境サークルに所属している多くの学生が主に楽しさを求め活動していること、また、エコバッグを持つことがかわいいなどポジティブからの方が入りやすいという点をあげました。一方、ネガティブ派は、実体験から、本当に環境問題の恐ろしさを体験している地域の人にとって、私たちが悩んでいる「一部の学生だけ環境問題に対してアクションを起こしていて、すべての学生が環境問題に取り組んでいない」ということを問題にしている場合ではなく、全員が環境問題に対してアクションを起こすことは当たり前である、つまり、私たちは良いことをしているのではなく、マイナスからゼロにしているだけ、という意見が出ました。

次に、環境教育をいつどのように行うべきかについては、「すでに遅い」「今この瞬間から」などの意見が多かったですが、子どもだけでなく、どの世代にも、いつでも環境教育を行える機会が必要であり、またそれを可能にするために、より多くの人材や仕組みを作っていかなければならないなど、たくさんの課題があることが明らかになりました。

最後に、このワールドカフェに参加して、参加者が感じたこと、今思っていることを一言にしてみました。

「自分の環境活動自体に疑問を持っていました。今日、少しヒントを得たのでよかったと思います。」

「環境活動は地球を救う活動ではなく、私たちの生き方を変える活動」

「環境は奥深い」

「ネガティブなエコの方が、人は確実に動く」

「人の動かし方」

「これから行動をなるべく早く起こしていくことが大切だと思いました」

「ネットワーク」

「positive or negative」

「行動する」

今回のアクションで、ひとまず GE のプロジェクトは終わってしまいますが、今回のキャンドルナイトカフェで、また新たなネットワークができました。これはあくまでも一つの小さなアクションではありますが、たとえ小さくても行動したことはよかったと思います。ただ、この活動は、これからが一番大切です。みんなが個々にアクションを起こして、それが結果として出たとき、はじめてこの企画をやった意味があるのではないのでしょうか。